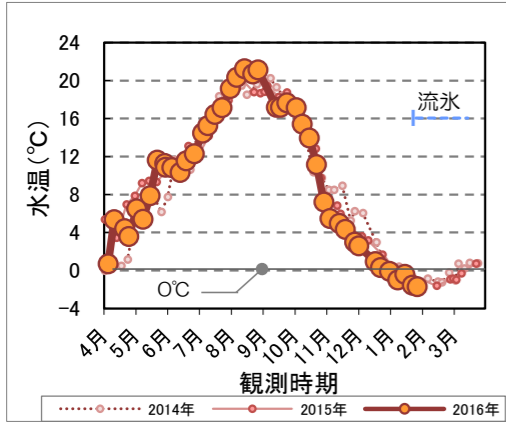


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2017年1月)

海洋環境データ

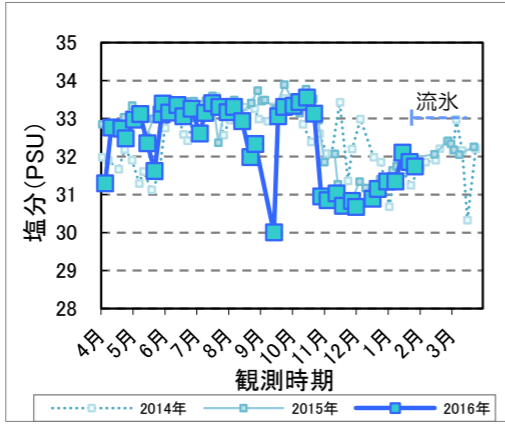
※観測：紋別市

◎水温 (0~9mまでの平均値)



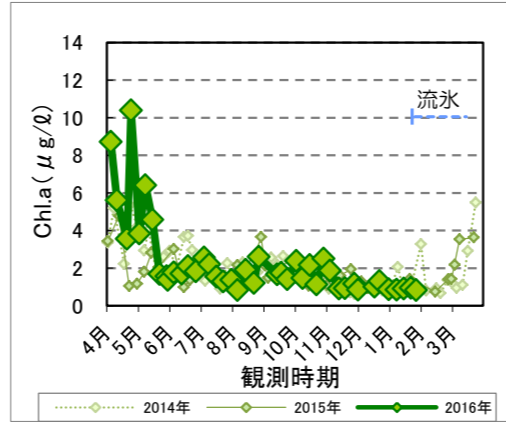
※2017年1月26日：流水初日 発表

◎塩分 (0~9mまでの平均値)



※2017年1月26日：流水初日 発表

◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

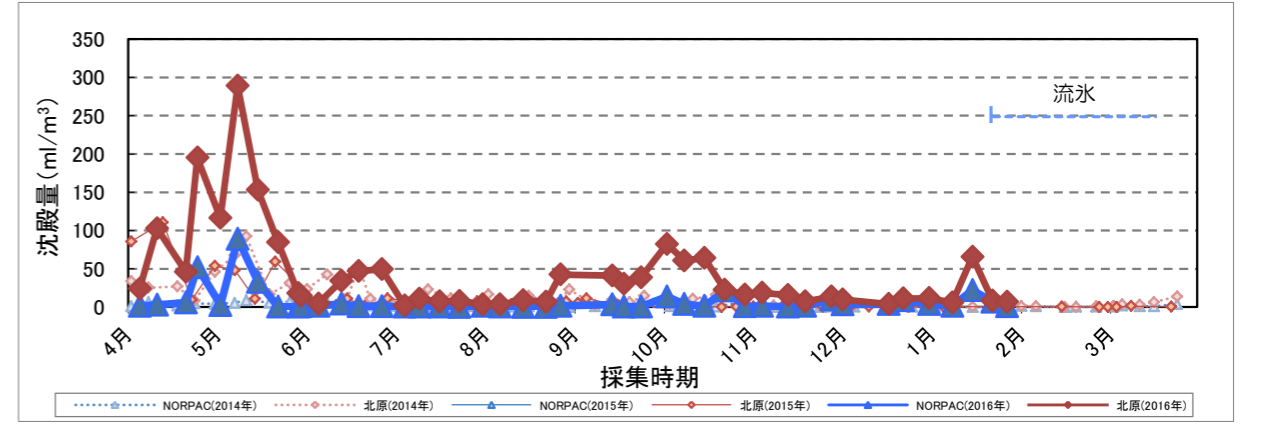


※2017年1月26日：流水初日 発表

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



※2017年1月26日：流水初日 発表

概要

Table with 5 columns representing dates (1月4日, 1月12日, 1月19日, 1月26日, 1月31日) and rows for environmental data (平均水温, 平均塩分, 平均Chl.a, 沈殿量) and zooplankton species lists (主な出現種).

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[...]内の“+”は分析者主観による個体数の多さを示す(+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、北海道において後述の性質が強い種類を示す(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量はこれを含んだ数値を示す。

※沈殿量欄の“0.0”表示は四捨五入の都合上、“0.1 (ml/m³)”未満になったことを示す。

※参考文献：①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説(東海大学出版会)②山路(1966)日本産海洋プランクトン図鑑(保育社)③岩国市立ミクロ生物館 監修(2011)日本の海産プランクトン図鑑(共立出版)

④Wilson, M. S., 1966. North American Harpacticoid copepods. 8: The *Daniellsenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* 20 (4), 435-444.

⑤Pinchuk, A. I., Hopcroft, R. R., 2006. Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* 332, 206-215.

⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門(恒星社学生館)⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima, 2005. A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* 52 (2), 92-99.

⑧西・加藤(2002)日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について. タクサ第13号, 5-17. ⑨今島(1996)環形動物 多毛類(生物研究社)⑩日本プランクトン学会 監修(2011)すかんプランクトン(技術評論社)⑪水島・鳥澤 監修(2003)漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]

⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *Bull. Japan. Soc. Sci. Fish.* Vol.26, No.9, 877-881. ⑬伊藤・水島・久保田(2005)駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部*, Vol.3, No.1, 19-35.

出現量の多かった種類



※Calanus glacialis, Neocalanus flemingeri, Tortanus discaudatus, Acartia hudsonica は今月の優占種に含まれなかったが、参考として記載した。